獅子は死せるに非ず

終刊の辞に代えて

小栗虫太郎

青空文庫

「シュピオ」に、終刊号が出ることになった。

われわれは、ほぼ所期の目的を達成したのであるから、此処で終止符を打つことにする。

人は惜しまれ……花は爛漫のとき……そして「シュピオ」は、もっとも売れつつある高潮期に幕をおろす。もちろん、営業部からは続刊の希望もあったが、すでに一年間とさだめた終刊の時期も過ぎているので、名残り惜しいが燈台の灯を消すことにした。

では……何故、売れつつある雑誌を止めるのか。

それは、当初の目的とする優秀新人の出現に、通巻十二号の今となってもまったく見極めが付かないからだ。斯界(しかい)の、萎靡沈湎(いびちんすい)は作家各自より、新人諸君に於いてもっとも甚だしいとする。従って、いかに営業部が続刊を迫るとも、もうわれわれにはこの上の情熱がない。

売れる——が、「シュピオ」に於いてはそれが目的ではない。ただ、唯一の機関、それあるのみだった。

それから、終刊に就いては、もう一つ事情がある。

それは、「シュピオ」という捨石によって……、せめて一年間も刊行を続けたならば、あるいは他に、専門誌が生れはせぬかと云うことであった。しかし、いまではその機運もなく……沮喪(そそう)にかさね、最後の十二巻目が来てしまったのである。

われわれは、此処で静かに残紙を焼くことにする。

こうして、日本探偵小説は闇のなかへ隠れる。しばらくは、光りのくるまで眠り続けるだろう。

無風の、批評のないなかで、惰眠を貪ぼるだろう。

しかし、「シュピオ」の獅子は、決して死んではいない。

（「シュピオ」一九三八年四月号）

青空文庫情報

底本：「「シュピオ」傑作選　幻の探偵雑誌3」光文社文庫、光文社
　　2000（平成12）年5月20日初版1刷発行
初出：「シュピオ」
　　1938（昭和13）年4月号
入力：鈴木厚司
校正：土屋隆
2004年12月4日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

獅子は死せるに非ず

終刊の辞に代えて

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　小栗虫太郎
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/